

## 年間第27主日

福音朗読 ルカ 17・5-10

2022.10.02

カトリック高円寺教会  
主任司祭 高木健次神父

唐突ですけども、わたくしは今ミサを司式させていただいておりますけども、ミサが好きなんです。ミサが好きって言うと、イエス様との内的な一致とか、なにか深い話かなと、そういうんじゃない、むしろ浅いっていうか、ミサに浅いことはないんですけども、こういう儀式を滞りなく、そしてできるだけ美しく執り行うみたいなの、そういうのが好きなんです。子どもの頃から侍者もやったりしてて。だから、大きな、クリスマスとか、ミサが一日に何回も、本来は2回までってなっているんですけども、司牧的な理由で何回か続いても、それは全然本来は苦じゃないというか、むしろ「ミサを司式させていただいて、本当に皆さんありがとうございます」という気持ちなんですけども、でも、いろんな方が労わってくださって、「何回もやって大変ですね」とか「神父さん、いろいろお忙しくって」って労わって言ってくださると、だんだん自分の中で本当に大変な仕事をしているような気持ちになってくる。本当は好きでやらせていただいて、ミサが大好きで、それで説教がなかったら一番いいんですけど(笑)、けどそういうわけにはいきません。わたしの中では、ミサをできるっていう、全部そこにつながっています。説教もだし、ミサ外の司祭としてのいろんな活動も。そうなんだけど、いろいろ労わってくださると、だんだん自分が本当に大変な仕事をして、忙しくっていうか、重荷を背負っているかのような気持ちになってくるというのは、ある意味で、悪魔が皆さんのそういう労りの言葉を用いてでも、わたしの中に傲慢というか、たいしたことないのに、あるいは好きでやらせてもらっているのに、それが重荷を担っているかのような重い気持ちにさせていくっていうひとつの、何でも悪魔は誘惑の材料にすると言ってもいいんじゃないかと思うんです。

この現象を、アビラのテレジア、16世紀のスペインのシスター、聖人ですけど、『完徳への道』っていう本の中でも書いてます。アビラのテレジアが書いているのは、誰かから侮辱されたときに、本人はそれは取るに足りないことだと思って受け流していくんだけど、周りの人が同情してくれて、「あなたはほんとに聖人のよう」とか「神様がどうぞそういう侮辱を耐える忍耐の徳を与えてくださいますように」とか、いろいろ周りの人が言ってくれると、自分が本当に酷い目に遭っているかのような気持ち

にだんだんなってくる。それは悪魔の策略なんだ、ということです。最初はたいしたことないと思ってるし、その他の場面では自分のことを本当の自分よりも高く、過大評価してもらってるような場面もあるし、神様の前では罪人であるにもかかわらず、周りの人が同情してくれていることで、自分がすごく酷い目に遭っているかのような気持ちになってくることってあるんですよね。わたしたちは、他の人が言ってくれなくても自分自身に向かって、今大変な目に遭ってるみたいなことを言い聞かせちゃうってこともあるかもしれません。

今日のみことばはそういうときに、イエス様が、なんか普段のイエス様らしくないなっていう感じです。「信仰を増してください」って言ったら、「そもそもあなたたちに信仰は、増してくださいもなにも、ないじゃないか」って話だし、あるいは、「何かすごいことをやってるような気持ちになってるけど、たいしたことしてないでしょ」っていうようなみことばです。でも、それを他の人から言われたらカチンと来ますよね。「神父さん、いつも大好きなミサができて良かったですね」って言われたら、「そうでもないんですよ」みたいな、あるいは、侮辱されたとかなんかのときに「あなた、そんなのたいしたことないじゃない」って誰か他の人に言われたら、「全然分かってない、この人は」っていう気持ちになりますけど、イエス様から言われたら、なんか素直に振り返えられるっていうこともあるんじゃないかなって思います。そのためにこういうみことばを残してくださったのかなって思います。

もちろん、イエス様は、わたしたちがいろんな思っている事に「たいしたことない」って冷淡な態度でわたしたちのそれぞれの人生を見ていらっしゃるっていうわけではない。だけど、いつも自分が大変な重荷の中にいるっていう思いにどンドンどンドン捕らわれていって、むしろその中で閉じ込められて周りの人を裁いたり、あるいは本当に自分自身が暗い気持ちになったり、わたしたち自身が苦しむほうに引きずられていくっていうひとつの悪のいざないがある。それに対して、時々「たいしたことない」ということで軌道修正していく。そういう「大変だ」という思いの中から少し出ていくような道を備えてくださる。そういうための、だから実際にイエス様が弟子たちに直接言ったのかって言うよりは、弟子たちが祈りの中で、復活したイエス様との対話の中で巡り合っていたみことばかなって、わたしは今思ってます。

皆さんそれぞれ、いろんな中でご苦労は確かにある。だけど、その中に閉じ込められない、そういう思いが大事かなと思います。だから、今日、いろんなことを「大変だ」ってことに閉じ込められないためにこのみことばを準備してくださったイエス様との対話のうちに、それぞれの人生を振り返って、また軽やかにと言いましょか、それぞれ感謝の心を新たにしていって歩んで行けたらな、それが信仰生活かなと思います。

わたしと共にいらっしゃるイエス様、その憐みに信頼しながら、今日のこのみことばを黙想できたらな、と思います。

---

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>